第Ⅳ部門　　微地形構造からみた敷地の占地環境に関する研究

京都大学工学部　学生会員　○浪岡　安則
京都大学大学院工学研究科　正会員　山田圭二郎
京都大学大学院工学研究科　正会員　中村　良夫

## 1.はじめに

従来の地形に関する研究[1), 2)]では，敷地の環境に重要な役割を果たしている段丘のへりや，地形勾配の変化点といったものの役割が見えてこなかった．その理由のひとつには地形に対するミクロな視点の欠如を挙げることが出来よう．そこで，本研究では主に縮尺 1/2500 地形図（等高線間隔 2m）を用いて微地形に着目することで従来の研究では見えてこなかった細やかな土地の変化を読みとり，敷地の占地環境およびそれに関わる微地形の利用法を把握することを目的とした。

## 2.微地形と占地

本研究では微地形の中でも特に野に着目した．日本にある地名の上位 10 位までのうち野という地名を含んでいるものが 3 つある.このことは野地名が研究対象として扱うだけの普遍的な地名であることを示している．また野は山麓の緩傾斜地を指す地名であるといわれており，その地形的特徴ゆえに古来日本人の生活空間と関わりの深い場所であったことが指摘されている[3)]．古くから利用されてきた土地だけに，その地に見いだされる微地形の利用に関しても様々な手法が用いられていたと考えることが出来，このことは共同研究者らによる山裾を対象とした敷地の地形的占地特性に関する研究[4)]によってみいだされている．以上のことから、特に野に限ってその地形学的構造を把握し，それをふまえて寺社仏閣の占地環境を見ていった．

## 3.野の微地形構造解析

まず文献資料[5), 6), 7), 8), 9)]を用いて京都市内における野地名を集め，それらの場所を特定したものを土地条件図に重ね合わせた．その結果，野地名は山裾および河川の曲流部のほぼいずれかに分布していることがわかった．

そこで山裾に位置する野についてさらに詳しく分析した結果，野の地形タイプは表.1 のように分類できた．

表.1 野の地形分類

| 野のタイプ | | 野地名の数 |
|---|---|---|
| 段丘 | 舌状地形 | 6 |
| | 山沿い | 1 |
| | その他 | 2 |
| 扇状地 | 単一 | 5 |
| | 帯状 | 3 |
| | 広汎 | 2 |
| 二つの川に挟まれた土地 | | 5 |
| その他 | | 1 |
| 計 | | 25 |

山裾に分布する野は段丘と扇状地に多く分布している．表.1 では文献によってその存在が確認された 65 の野地名の中で，資料の存在状況から場所の確認できた 25 の地名について分類したものである．段丘では様々な形状の中でもとりわけ山裾から舌状にのびた地形に対して野と名付けられている例が多くみられた．尚，表.1 では場所の特定された野地名の数のみで扱っているが場所の不確定な野地名周辺にも舌状段丘が多く見られた．このことから舌状段丘型の野はかなりの数にのぼると考えられる．このタイプの野は段丘の縁が野と他を分節する境界の役割を果たしている（図.1 参照）．

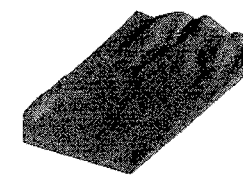

図.1 宇多野（舌状段丘型）

扇状地に分布している野の地形についてはさらに，単一河川から形成された扇状地と，複数の河川から形成された複合扇状地の二種類に分けることが出来た．単一の河川から形成された扇状地に対して名付けられた野は，山裾に非常に近いところに位置しており，野の三方を山裾が取り囲むようにして領域が形成されている．領域が比較的狭く，傾斜の勾配の変化によって他と分節されている．一方，複数の河川によってできた複合扇状地に対して名付けられた野は，その領域が比較的広いことが特徴である．こちらの場合も勾配の変化が境界の形成に使われている．

Yasunori NAMIOKA, Keijiro YAMADA, Yoshio NAKAMURA

また，地形的変化に乏しく勾配が緩やかな野もあった．このタイプは野自体に地形的特徴がないことからその周辺が持つ地形的変化によって逆説的に野の領域が浮かび上がっている．

## 4.寺社仏閣の立地環境

3 の結果を基にして寺社仏閣がどのような場所に立地し，その場の微地形をどのように敷地に取り込んでいるかをここでは見ていく．

まず対象とする寺社仏閣の選定にあたっては野とその周辺に存在するものに限った．ここでは由来によって、「宗教的施設を目的として建てられたもの」と「別荘や庵，離宮に由来を持ち住宅・別荘と寺院との区別が曖昧なもの」の二つに分けたうえでその立地に趣味・趣向がたぶんに凝らされていると思われる後者についてさらに詳しく見ていった．対象とした寺社仏閣を表.2 に示した．また，大覚寺とその周辺の地形環境を図.2，断面図を図.3 に示した．

表.2　寺社仏閣の由来

| 寺社名 | 宗派 | 創設・開山 | 備考 |
|---|---|---|---|
| 直指庵 | 浄土宗 | 江戸初期 | 草庵が起源 |
| 清涼寺 | 浄土宗 | 880ごろ | 元は源融の山荘 |
| 大覚寺 | 真言宗 | 814ごろ | 元は嵯峨天皇の離宮 |
| 妙心寺 | 臨済宗 | 1340ごろ | 元離宮 |
| 臨川寺 | 臨済宗 | — | 元亀山法王の離宮 |
| 龍安寺 | 臨済宗 | 平安中期 | 元山荘 |
| 妙光寺 | 臨済宗 | 鎌倉時代 | 元花山院藤原師継の山荘 |
| 法金剛院 | 律宗 | 平安初期 | 元は清原夏野の別荘 |
| 仁和寺 | 真言宗 | 886 | 日本初の門跡寺院 |
| 鹿離庵 | 臨済宗 | — | 藤原定家の山荘か？ |
| 天龍寺 | 臨済宗 | 承和年間（830ごろ） | 亀山殿あと |
| 金閣寺 | 臨済宗 | 室町時代 | 足利義満の北山殿跡 |

微地形は本来はその土地土地の特有のものである．しかし微地形の利用手法という観点からみていくと，そのユニーク性を越えたところに，ある普遍性や共通性といったものが見いだされた．それらを以下にまとめておく．

・段丘の縁を利用した滝の演出
・池の創出（段丘や池を挟んだ山の見え）
・川を利用した敷地境界の形成
・段丘の縁を利用した敷地境界の形成

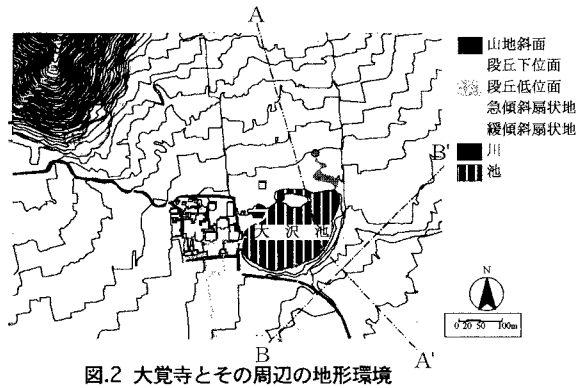

図.2 大覚寺とその周辺の地形環境

## 5.おわりに

本研究の結論を以下に示す．

①野の存在状況は山裾と川の曲流部にほぼ一致する．

②山裾に存在する野は中でも段丘と扇状地に多く分布している．

③野のタイプには舌状段丘タイプ・単一扇状地タイプ・複合扇状地タイプ・緩傾斜タイプの四種類に分類することが出来た．

④微地形を利用することでその土地にもともとは無い意味づけが演出されていることが分かった．

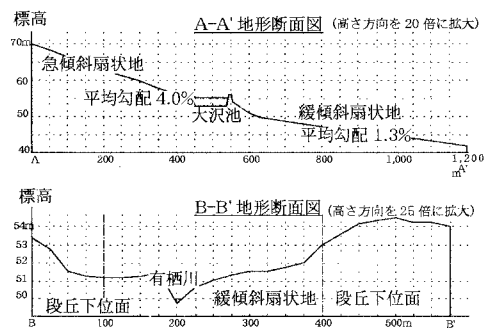

図.3　大覚寺周辺断面図

【参考文献】


1) 樋口忠彦：日本の景観，技報堂，1975 年
2) 笹谷康行：地形の意味に関する研究，1990 年
3) 柳田国男：地名の研究，ちくま学芸文庫，1990 年
4) 山口一人：山裾型寺院敷地構成に関する景観論的研究，土木計画学研究・講演集 No.23(2),p597-600,2000
5) 名所都鳥，元禄 3 年
6) 足利健亮：京都歴史アトラス,中央公論社，1994 年
7) 国土地理院：数値地図 25000
8) 葛野郡史概要，大正 11 年
9) 京都市の地名，平凡社，1979 年